

国際連合兵力引き離し監視隊（UND OF）司令部
副広報幕僚 1等陸尉 森谷 尊久

H O N O U R

私は、UND OF 司令部の人事部において、オーストリア、カナダ、インド、ポーランド、フィリピンそしてシリアの人達と勤務をしている。任務についてから早10ヶ月が過ぎ、多くの出会いと別れを経験した。勤務、そしてこの出会いと別れを通じて、いつも考えるのが「H O N O U R」という言葉の意味である。この「H O N O U R」は、お互いの仕事に対する敬意を表す場合や出会いや別れの際等、様々な場面で使用される。例えば、「あなたと一緒に仕事ができることを光栄に思う。」や「この任務に就くことができたことを光栄に思う。」等である。

私は、今、他国の隊員が光栄に感じているように、この任務に就くことができたことを光栄に思っている。それは、国際平和へ貢献していることに対する誇りであったり、日本人であることへの誇りであったりする。UND OF の任務は、「イスラエルとシリアの停戦監視」、究極的には「停戦維持」であるが、第4次中東戦争以来35年、多くの困難を乗り越えてこの任務を遂行している。これは、隊員全員が誇りを持って、この任務にあたっているからこそその成果であると思う。

そして、日本人であることへの誇りは、他国の隊員との交流を通じて、日に日に強くなっていった。日本人は、相手を思いやり、相手を尊重して、誠実かつ真面目に仕事に取り組む。これは、他国の隊員からも好感を持たれているし、仕事に対する評価にもつながっていると感じる。これは、過去13年間、この任務において先輩方が築き上げた成果であり、これを汚すことのないよう、今後も日本人らしく頑張っていきたいと思う所存である。

しかしながら、逆に日本人は、日本という国の歴史的・地理的特性はあるが、国に対する愛情が少ないと感じた。他国の人は、自分の国を愛し、自分の国を誇りにしている。だからこそ、国の代表として、この任務についていることを誇りにしているのだと感じる。日本に対する他国の高い評価は、もちろん高度な科学技術に対するものであるのは当然であるが、なによりもその態度や心に対するものである。この勤務を通じて、日本に対する誇りそして愛情を持つことができた。

最後に、私の任務を完遂し、「H O N O U R」という言葉をみんなの前で堂々と述べて帰国できるよう、日々精進、努力していく所存である。



誇るべき仲間達



仲間との別れ